

# 便利と時間

安中市立松井田南中学校

三年 多胡 斗稀

「ねえ、私の話を聞いてる？」

母からの言葉に、はっとすることがあった。今まで夢中で気がつかなかったのだ。スマホをずっとのぞき込んでいたから…。

最近、身の回りで便利なものがたくさん増えた。例を挙げるなら、スマホ、PC、TV、AIなど。それらが社会で広く使われるようになり、必要不可欠な存在となった。確かに私もこれらのものは便利だと思うが、果たして私はスマホのおかげで生活が豊かになったのだろうか。スマホとの「向き合い方」が正しくできているだろうか。

私のように、中学校入学と同時にスマホを買ってもらう人はこれから段々増えてくるだろう。その時に多くの人が、保護者から「はじめをつけて使いなさい。」と約束させられるはずだ。私もそ

うだった。しかし、使っているうちに段々スマホの虜になり、気付いた時には、どんな時でもスマホが無いと落ち着かないという状態にまで陥ってしまったのだ。私は家の人に反抗しようとか、勉強なんかどうでもいいだなんて少しも思ったことがない。しかし、スマホに夢中になっていた時期は成績は下がり、部活は集中できず、家族との会話も減るといって最低な生活を送ってしまった。自分がまさかこんなことになるなんて思ってもみなかった。

スマホが世の中に普及してからというもの、周りのほとんどの人が下を向いている。誰かに声をかけられるまで、ずっとスマホをいじっている。私は「便利」の悪い点は、「時間を生み出すが、その生み出された時間を別のことに使わせる。」点だと考える。

便利なものは仕事の効率を上げてくれる。スマホのおかげで連絡や計算があつという間にできてしまう。その分、余った時間が生まれるのだ。

では、「便利」によって余った時間はどのよう  
に使われるのだろうか。

時間が余ると、人はゆとりを感じてしまう。「便利」を知ってしまった私たちは、時間を有効に使うのではなく、その余った時間を楽しみに使える時間と捉えてしまうのだ。例えやるべき事が山積みになってしまっても、どうしても後に待っている苦勞よりも、目の前の楽しいことを優先させてしまう。気がつけば、「便利」で生み出された以上の時間を楽しみに費やし、そこから後回しにしていたやるべき事をするという悪循環に陥ってしまっているのだ。結果的に、自分の首を自分で絞めてしまっているのだ。

私は、自分の首を解くために、スマホを使用するのを諦めて保護者に預けることにした。私一人の力では、「便利」の魅力に勝つことはできないと悟ったからだ。今では成績も落ち着き、部活動や家族に対する姿勢も良くなったと周りからも言われるし、何より自分自身が一番感じる。だが

あの時期のもったいない時間の使い方を取り戻すことはできない。

「便利」を全て消すことはできない。私も高校生になったらスマホを返してもらい、友達作りや勉強に役立てていきたいと考えている。ただ、今はそれができる力がないだけだ。「便利」は現代社会に必要不可欠な存在となった。「便利」との共生、それこそが私たちが問いかけ直さなければならぬものなのではないだろうか。あなたは「便利」を有効に使えていますか。真の「便利」とは何ですか。